



伝統構法に学ぶ
住まい
涼木
その5

文・荒野一星

市内若楠の住宅地の一角。高気密・高断熱の在来構法の住宅群の中に、伝統構法で建築中の自然素材の家が一棟。凛とした、たたくまい。あたり一帯に、柔らかに優しい波動を送り出している。

(2011.1.23)

夢木香の構造見学会で、柱や梁など構造材のおさまり具合を見る度に、その美しさにうっとりと思われてしまい、限りなく癒される。正に「構造即意匠」。

百年後も凛と立つ家

この若楠のY家の梁組も、見事！の一言。特に天井部分の曲がり材のおさまりの良さ！うーん！…思わず唸ってしまふ。見学に見えていた中年のご夫婦もやはり、うーん！と声を上げておられた。互いに顔を見合わせ、どちらからともなく笑いあってしまった。

ものづくりの基本は美しくあること、丈夫であること、長持ちすること。伝統構法の木組みの美しさは、すべての構造を仕上げで隠す必要がなく、現してあるから、誰にでも一目で分かる。丈夫で理に適った、伝統木構造の応力分散型立体構



べてこの構造に進化した。この三次元の立体構造のわかりやすい例は、竹籠。細い竹ひごで編んだ竹籠が何故丈夫なのか？

・応力(抵抗力)が無数の接点に分散している
・どの部分も抵抗に参加している
・抵抗接点は何千にも及ぶ
・エネルギーの分散・還流は自然の原理。この柔構造のよりわかりやすい例は人体である。骨格が無数の接点で応力を分散しているからこそ、一見華奢に見える人体が、実は柔軟で強靱なのだ。全体で包み込むよう

にして生命を守る。その意味で、孤立した平面構造のままにとどまり、筋違だけに頼る戦後の在来軸組は理に適っていない。エネルギーが分散・還流せず、全ての応力が筋違一点に集中する。この一点で頑張ってしまうから、外圧が限界量を超えると、構造全体が全壊する。(95年の阪神大震災における全壊十萬棟は、その例。) 剛構造がもろいのは、宇宙律に逆らっているからに他ならない。「長持ちすること」に関しては、法隆寺に代表される、日本に無数に現存する伝統

建築物の長寿ぶりが、何よりの証左。
木は乾燥に伴って、収縮し、反り、狂いを生じる。一世代住み終ると、木の暴れが納まり、始めて完全材に変化する。木の自然劣化は千年以上。百年経って完全材になり、本当の木になるのだ。完全材である古材は新材より貴重。何代にもわたって再利用され続ける。(常時有毒ガスを発し続ける短命の集材材を使い、冷・暖房費の安さをもってエコ住宅？こんな幻想から、いい加減に目覚めましょう。)

見学に来ていた若夫婦の子供達、5才の健太郎君と2才の望都ちゃん。大喜びで床の上を駆けまわっている。正に子供達の喜ぶ家！

4月17日。壁塗り。

朝から絶好の壁塗り日和。半年から1年寝かせた壁土を、両手で思いきり掴み取る。竹小舞に向かって、下から上につき上げるように叩きつけていく。小手で仕上げていく。
参加した女性陣のたくましさに脱帽！子供達はもちろんだ喜び！
参加した人々の喜びの波動が強いエネルギーとなって空間全体に行き渡っていく…心地よい。

有限会社 夢木香

日本民家再生協会正会員
佐賀県鹿島市大字三河内甲 2847
<http://www.yumekikou-happy.com>
TEL:0120-835-832
TEL:0954-69-8333 FAX:0954-69-8334
E-mail:yumekikou@globe.ocn.ne.jp

100年後の 未来を見つめる家 兵庫の家 構造見学会

日時：平成23年5月21日(土)、22日(日)
10:00~17:00
場所：佐賀市兵庫町藤木
伝統には、時が必要です。ブランドには、技術が必要です。
そのこたえは100年後に待ちます。

